

■学校経営のポイント

「確認」の重要性の再認識と実行を！

小島 宏

今年7月に起きた、送迎用バス内に放置された幼児が死亡するという痛ましい事故は、いまだに脳裏を離れない。当たり前の事柄の確認と、確実に実行することの重要性を痛感した。

そこで、今号では学校における「確認」の重要性と実行について考える。

生命・安全に関する確認事項とチェック

学校の危機管理の最優先事項に、子どもの生命・安全の確保が挙げられているにもかかわらず、悲しい事故が繰り返されている。

学校は猛省するとともに、子どもの生命・安全の確保のために、例えば、次のような当たり前の事柄が実行できているかどうかの確認とその対応を、見直す必要がある。

- 子どもの出欠席の点呼と欠席理由の確認(場合によっては保護者へ確認)
- 校外学習や水泳指導などでは、子どもの所在を活動の節目で随時確認するとともに監視(見張り)と指導)役教師を配置する
- 持病や食物アレルギーなどの状況把握に基づく、随時の確認と対応策の確実な実行

教職員の確認と対応

そこで、教師には、子どもの生命・安全に関する知識のレベルから確実に行動できる様になることが求められる。

上記○の事項について、学校としての対応マニュアルを作成し、共通理解し、全ての教師が「確認」と「対応・実行」を徹底できるようにする必要がある。

対応マニュアルについては保護者にも公開し、協力・連携すると効果的である。

子どもへのSOSの出し方指導

教師が子どもの生命・安全の確保に万全を期すと

ともに、子どもに「困ったこと」や「してほしいこと」があった場合に、近くの教師や大人などに「助けてほしい」とSOSを出せるように、具体的に指導することも必要である。

共通理解と確認の徹底

学校のマニュアルを徹底するためには、具体的な確認事項の共通理解、確認の徹底とその記録がポイントになる。

出欠席の確認と出席簿への記録、校外学習や水泳指導などにおける所在の確認と名簿へのチェック、食物アレルギーなどの名簿に基づく確認と対応策の確実な実行と記録を、全ての学級、全ての教師が行えるようにする。

内部や外部との「報連相」

そこで、子どもの生命・安全に対する状況や対応についての情報を、職員連絡会や会議などで「報連相」をして、互いに戒め合っていくようにしたい。

また、外部(近隣の幼稚園・保育園、小・中学校など)とも、随時「報連相」をして、自校の対応を補完するようにしたい。

校長のリーダーシップ

このような基本的なことは、「やっているに違いない」と思い込みがちである。

当たり前のことが当たり前に行われているかどうかを確認し、確実に実行させるために、管理職には、随時これらを話題にし、注意を喚起していくことが求められる。

また、学校の役割である「子どもに質の高い教育を保証する」意味から指導計画の確認・実施・記録を奨励し、指導内容の欠落が生じないようにすることについても意を用いたい。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会顧問)

●未曾有の事態を乗り越え、新学習指導要領を実現する！

子どもと教師の未来を拓く総合戦略 55 アクティブ・ラーニングからGIGAスクールまで

【著】村川雅弘 A5判/定価 2,200円(税込)

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

